

第 66 回 日本生殖医学会学術講演会・総会

S5-1

鳥取, 2021.11.11-12

ART におけるチョコレート嚢胞に対する穿刺やエタノール固定の有用性

辻 勲¹、福田 愛作¹、森本 義晴²

1.IVF 大阪クリニック、2.HORAC グランフロント大阪クリニック

チョコレート嚢胞合併不妊患者に対して、主として嚢胞摘出術が行われてきた。しかし、ART 前の嚢胞摘出術が臨床成績の向上に寄与せず、卵巢予備能に与える影響が大きいことから、嚢胞摘出術を回避して ART を実施する傾向がある。チョコレート嚢胞に対して嚢胞摘出術を行わない場合、チョコレート嚢胞による卵子の数的・質的な低下、採卵時のチョコレート嚢胞の感染や嚢胞内容液の卵胞液への混入、妊娠中のチョコレート嚢胞の感染や破裂、チョコレート嚢胞の癌化のリスクといった問題が生じることから、チョコレート嚢胞の取り扱いについてはコンセンサスがない。このような現状から、チョコレート嚢胞合併不妊患者に対して、いかにして卵巢予備能を温存し、妊娠率を向上させるかが生殖医療における大きなテーマである。

当院ではエタノール固定や、複数回の嚢胞穿刺吸引術にホルモン療法を併用した治療などを実施して、チョコレート嚢胞合併不妊患者の ART における臨床成績向上のための治療を行っている。嚢胞穿刺吸引術は経膈超音波ガイド下に実施することができ、簡易で侵襲が少なく、卵巢予備能への影響はない反面、チョコレート嚢胞の再発が多いという欠点がある。そこで、エタノール固定やホルモン療法を併用し、チョコレート嚢胞の再発を抑制することにより、ART の臨床成績を向上させる可能性がある。本講演では、当院で行っている ART におけるチョコレート嚢胞合併不妊患者に対する取り組みとその治療成績を中心に述べる。